

慈悲 正念寺 寺報

令和元年 11月 3 日刊

◎親鸞聖人ご正忌報恩講のご案内

報恩講は、真宗において最も大切な法要です。約八〇〇年前の鎌倉時代に、親鸞聖人が、釈尊の教えをより分かりやすくしたお念仏の教えを開かれました。聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀如来の教えに報恩する集いです。平素は何かと不安や孤独、悲しみが多いです。思い通りにならないことに沈み、苦しみ、悩んだりします。一方で、「かたじけない」、「もったいないなあ」、「ありがたいなあ」、「うれしいなあ」と感謝もします。お参りすることにより、改めて聖人のご生涯を見つめ、報恩講を通して生きて、生かされていくことを確認しましょう。

一人でも多くのご参詣をお待ちしております。

合掌

日時

11月16日(土) 昼1時30分〜 法話 出勤法中

11月17日(日) 朝10時〜 法話 当山

※日時は諸事の都合により変更となりました。ご了承承ください。

◎親年番・年番会のご案内

11月16日(土)の報恩講終了後、夕方4時頃より親年番・年番会
をおこな
を行います。ご都合が
おありかと存じます
が、ご出席
をお願いします。
1時間程で終了
予定です。

◎あれこれ雑感

一・親鸞聖人は、1173年〜1162年、満九十歳まで生きぬかれました。
その間、年号の改正はなんと34回あまりあり、大変激しい時代だ
ったことを伝えて
います。各地で、戦争・天変地異・風水害・
飢饉・飢餓・疫病などが頻繁に発生して
いました。そんな時代に、
心の支え、そして時を生き抜くための大切な大切なことを説かれ
ました。それは、一人一人が豊かな心を持ち、その心を繋ぐこと
でした。それを、御同朋・御同行とい
います。

二・退職した方が、若い時からの趣味で絵画を習っているので、
「蓮を描きたい。蓮の花が散った後にできる『蓮』が欲しい」と
のことだったので、数十本さし上げたところ、大変感動してくれ
ました。生まれて初めて直に蓮を見た
たこのことです。

出会いによって、感動し、心を躍らすことは、
いつまでも大切な栄養だと思
いました。

